7研修第7号　（令和7年8月）
発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

令和７年度　乳幼児教育・保育協働研修通信

テーマ
「宇治市の
フォローシステム」

令和７年７月15日(火)
第７回研修会(発達・子育ち支援分野)を
開催しました。

17名の先生方と一緒に学び合いました。
（保育所(園)3名・幼稚園２名・認定こども園10名・療育施設２名）

※　この研修通信は、園内の体制等でご参加いただけなかった皆さまにも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

Ⅰ.報　告 ①

「発達面で支援が必要な子どもとその保護者に対する就学前のフォローシステムについて」

講　師　宇治市保健推進課　発達相談員　岡　千尋

発達相談員の報告の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

親子教室

- いろいろな教室の内容(1 日の流れ等)を知れたこと
- 少人数の中で楽しく学ぶことで、自尊感情の高まりを得ることができるという話
- フォロー教室で回数が終わると継続がないことを初めて知った。
- 様々な教室の内装

はじめの100か月

- 乳幼児期の保育をする上で大切にしたい。
- 詳しく知らない職員もいるのではないかと感じた。

連携・つながり

- 保育者と支援員との連携がとても大切だということ
- 園と施設との連携の大切さ
- 療育につないでもらったあとも保健師などとのつながりも大切にしていけたらと思った。

療育施設

- 保護者との連絡、伝え方で療育に対するイメージ思いが異なる。
- どんな療育があるのか知ることができた。
- 療育施設の中にも保健推進課へ申込するものと事業所に申込するものと 2 つのやり方がある。

その他

- 5 歳児健診の中身もわかったので良かった

2.報 告 ②

「宇治市の就学相談」

講 師

宇治市教育総合推進センター

学校教育課

指導主事　本多 潤美 先生

指導主事の報告の中で、心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

通常の学級では個別の支援はないが、環境的な配慮ができること

子どもに合わせたオーダーメイドの授業

切れ目のない一貫した支援の大切さ

その子が輝ける場所はどこなのかという視点で就学相談を進めていくという言葉

保育園だけではなく、その先の小・中・高就学までの伝えるシートと実際に職員同士が話すことの大切さ

就学相談の紙をどういった思いで配布されているのかを知り、小学校へつなげていきたいと思うことができた。

グループワークの中で、心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

療育の先生も来ていただいていたので、お互い情報を交換できてよかった。(保育所)

園の先生方の困りごとも色々聞けて、改めて連携の大切さを感じられた。(認定こども園)

各園のベテランの先生方でも知らないことが共通してあることがわかり嬉しかった。もっと学んでいきたい。(幼稚園)

療育では、少人数で過ごすことでその子の成長に気づくことができる。(療育施設)

保育で活かしたいこと

教室を見学OKとのことだったので、見学に行き、困っている子には勧めて自信にしてほしい。

発達相談について担任が保護者にすすめる時にどんな内容のものがあるか一緒に伝えていきたい。

発達の相談などを保護者やクラスの先生だけではなく、実際に関わってくださっている療育の先生と話す時間を作っていきたいと思った。

保護者から就学について質問を受けた際には今回配布された資料を基に対応していきたい。

就学相談など。就学前１年の流れを頭に置いておきたいと思う。

子ども一人一人の発達をよく理解していくこと

保護者対応をする上で不安なことをしっかり聞いて、就学することや療育へ通うことへのハードルを下げていきたい。

就学相談の流れを知ることができたので、それに沿って保護者ともコミュニケーションを取っていけたらと思う。

園として保護者と連携を取りながら、早めに支援へ動くこと。小学校への丁寧な連携

気になるところばかり伝えると保護者も一歩引いてしまうのでしっかりと成長を伝える。

１１月に就学予定先の決定があるので個人懇談の行う時期

就学に向けての小学校とのつながり。健診や教室への参加

保護者の気持ちを大切にしつつ、その子にとってどうするのがベストなのかを学校とも連携しながら考えていくようにすること

他の保育者に共有し、年長児担任だけでなく、他の保育者とも療育や小学校の接続について知っていきたいです。

支援が必要な子どもへの対応を実践する。

園・校が１つになって療育施設も一緒に見守っていけたらと思う。

就学相談の話に今後参加することがあるかもしれないため、今日お話していただいたことを思い出しながら保護者の方と連携を取っていきたい。